

内山真龍(元文5(1740)年～文政4(1821)年)は遠江国豊田郡大谷村(浜松市天竜区大谷)の名主の傍ら、渡辺蒙庵や賀茂真淵に師事し、遠州国学者として学問に励みましたが、絵を描くことにおいても秀でていました。

真龍が文化人としての教養を示すために、あるいは日常の手慰みとして余技的に描く絵画は文人画(南画)でした。齢八十の記念に描いた「自画像」や、陰影遠近は墨の濃淡で、色彩は淡彩で表した「襖画図」などが生家内山家に残されています。

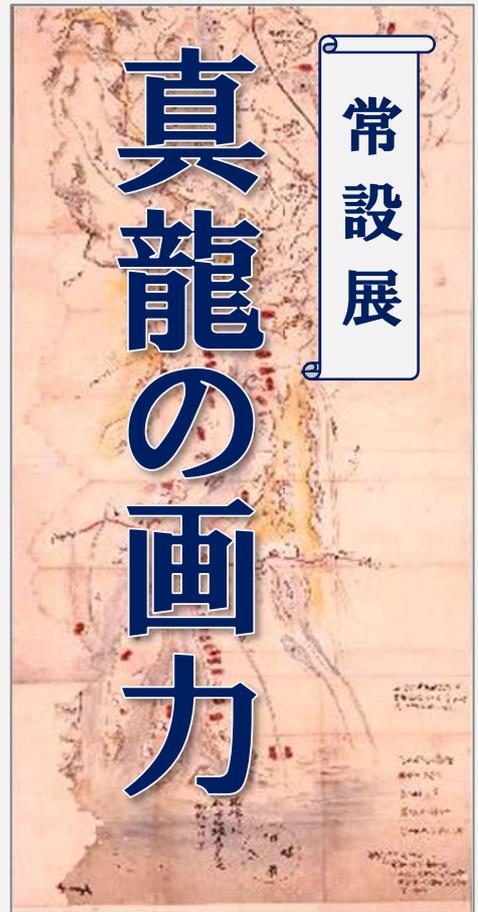
享和3(1803)年、勘定奉行の柳生久通の当地方巡見に際しては、中泉代官所からの依頼を受け、源流の諏訪湖から河口の掛塚湊にわたる天竜川を長一丈二尺、幅三尺(長さ約3m60cm×幅90cm)に収めた「天竜川絵図」を描き上呈しました。

また、寛政年間10年の歳月を費やしてまとめあげた『遠江国風土記伝』の中に描かれた絵図は、真龍が自ら現地を調査した記録であり、当時の状況を知る上で貴重な史料となっています。

本展では、これらの真龍が描いた絵画を通して、真龍の足跡を辿ってまいります。

真龍の画力

常設展



▲天竜川絵図(部分)

主な展示内容(予定)

- ◆天竜川絵図
- ◆自画像
- ◆襖画図 夏景
- ◆蘭
- ◆松画賛
- ◆遠江国風土記伝 巻第七[豊田郡] 天竜川の記述
- ◆日記 享和三年～四年 天竜川絵図の事



▲自画像(部分)

令和7年6/27(金)

▶ 9/7(日)

観覧
無料

浜松市立 内山真龍資料館

開館時間:午前9時から午後5時まで

休館日:月・火曜日

住所:浜松市天竜区大谷568番地

電話:053-925-4832



浜松市HP

